



壱岐市【長崎県】 歴史文化基本構想

■策定年度：平成31年3月 ■人口：26,765人 ■市域面積：138.57km²
■担当課：壱岐市教育委員会文化財課（平成31年3月現在）



壱岐市は朝鮮半島と九州本土の間、玄界灘に浮かぶ島で、古より交易拠点として重要視されてきた歴史をもつ。『魏志倭人伝』に一支国と記され、その王都である国特別史跡原の辻遺跡をはじめ、280基もの古墳や2度にわたる元寇古戦場跡、文禄慶長の役時に兵站拠点となった勝本城跡などの歴史遺産だけではなく、今も農村の「在」と漁村「浦」の暮らしに残されている民俗風習も含め、まちづくりに活かしていく。

5 歴史文化を表す つのキーワード

交易の拠点、一支国、信仰とまつり、
異国襲来と勝本城、島の風土と暮らし、

課題

- ・少子高齢化による人口減少と後継者及び担い手の不足
- ・開発と保存の両立

保存活用方針

- ・景観の保全
- ・調査、収集の推進
- ・保護措置の推進
- ・生涯教育を通じての人材育成

保存活用のための取り組み

景観保全への取組

壱岐市の調査や観光関連の情報提供さらには市民や来島者からの意見を募り、これら収集した景観について壱岐遺産の抽出基準に基づいて検討し、選定する。選定した景観についてはそれに関わる関係者等に協力を求め、特に重要なものについては重要景観計画区域への位置付けを行う。



調査、収集の推進への取組

過去の調査記録にある物件の現状調査等のほか、市民からの情報提供を重視し、官民協働による調査収集を推進する。調査収集にあたっては、従来の指定基準に捉われない新たな視点からの発見を期待し、そのため壱岐らしさを物語るそれぞれのストーリーについて普及啓発を行っていく。



保護措置の推進への取組

指定・登録文化財を含め、全ての壱岐遺産についての価値を明らかにし、それに関わる人々に周知して指定や登録による保護措置を推進する。収集した壱岐遺産についてはデータベース等を作成し、一元的に管理するとともに、広く公開を行っていく。



生涯教育を通じての人材育成への取組

将来の担い手の育成を目指して、学校教育との連携により児童生徒が壱岐遺産を理解し、親しむことを目指した取り組みを行う。また壱岐遺産に関連する行事等を生涯学習に活用するなどの活動を通じて世代間交流による人材育成を図る。



歴史文化保存活用地区



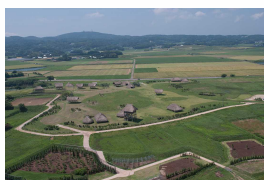
暮らしの積み重ねが地域文化として色濃く残る杵崎市には数多くの文化財が残っており、特に①弥生時代の一支国の王都として唯一特定され、原風景が今も残る原の辻遺跡や、②古墳が集中する杵岐中央部、さらには③文禄慶長の役により兵站の出城となった勝本城と近世捕鯨で栄えた勝本浦集落は、杵岐の歴史を物語るうえで欠かせない地域である。また自然にも恵まれ、良好な景観を維持している。

ストーリー

- ① 一支国の王都と在の景観
 - ・ 原の辻遺跡
 - ・ 安国寺
 - ・ 内海湾
 - ・ 深江田原
- ② 古代杵岐国の中心地
 - ・ 双六古墳
 - ・ 生池城跡
 - ・ 杵岐国分寺跡
 - ・ カラカミ遺跡
- ③ 海のくらしと歴史の舞台
 - ・ 勝本城跡
 - ・ 舟競争行事
 - ・ 勝本浦の街並
 - ・ 辰の島

策定後の成果（見込まれる効果）

① **文化財保護と活用のマスタープラン**
 杵岐市の文化財保護の制度は、基本的に合併前の旧町時からそのまま引き継いでおり、統一したものがなかった。基本構想を策定したことにより、今後はこれを基軸として位置付け、今後の文化財に対する事業を推進していくことができる。またこれを公開することにより、杵岐市の文化財の周知に繋げることができる。



② **歴史文化遺産の保存と活用**
 地域活性化に繋げるため、また観光振興の促進のために、適切な文化財保護措置のもとに環境整備を行うための取組に繋がっている。一方では市民が「杵岐遺産」を地域の誇りとして活用していく動きを見せており、文化財に対する関心が高まっているといえる。



③ **文化財の現状確認と総合的把握**
 本構想を策定するにあたり、悉皆調査や追跡調査を実施したことにより、失ったとされていた文化財の再確認に繋げることができた。また所有者や管理者との聞き取り調査を行うことで伝承や相続、更には防犯や公開の是非等様々な課題を改めて共有することができた。また所有者や管理者に対し、文化財保護への協力強化に繋げることができた。

